

第7回島田市教育環境適正化検討委員会【議事要録】

第7回島田市教育環境適正化検討委員会【議事概要】

日時：平成30年8月2日（木）15:00～16:30

場所：金谷公民館 集会室3

出席者

【委員】武井敦史（委員長）、池ヶ谷俊幸、榛葉徹、仲安寛、福田秀樹、伊藤健太郎、藤本敏彦、良知克明、伊藤冬久、畑浩、中村延也 【事務局】濱田和彦、畑活年、池谷英人、平松栄治、大石真司、和田英弥、廣田豊和 【関係課】駒形戦略推進課長、三浦協働推進課長、渡邊地域づくり課長

【傍聴人】なし

●【議事概略】

武井委員長よりあいさつ

本日で第7回目を迎えた。中間報告の後、各地区において教育委員会より説明会を開催し意見を集約した。9月末を目途にこの委員会として最終報告を作成していく予定である。次回の検討委員会には最終報告案を出していく予定である。

今日は各地区で開催した結果を後から事務局より説明をしてもらう。アンケートの結果は概ね再編は良いという結果は出ているが、少数意見を無視することはできない。この検討委員会として目指す方向性はあくまでは、一方で子どもの利益を最優先にするが、他方では子どもを育てるためにこそ地域が元気でなければならない。その地域に住んでいる人にとっては子育てがし易い環境を作っていく。これを同時に追求していかなければならない。

今日は自由に議論していただき、それを基にして次回おおよその原案を出し、適正化検討委員会としての方向性を出していきたい。

●【島田市教育環境適正化検討委員会中間報告意見交換会報告】

池谷学校教育課長、廣田学校教育課係長より説明（詳細は資料のとおり）

●【説明後の各委員の意見】

（A委員）

どの地域も子どもを中心に考えてほしいと考えている。初倉小と湯日小は距離が近い。北部はどのようになるかで距離的な問題が出てくる。伊久美小は特任校制度を取り入れていて、その保護者が学校の良さを述べていた。中間報告の説明では教育委員会の説明に地域が違和感を持っていた。教育委員会として、提示された案によってどのような教育が必要かを述べてほしかった。

（B委員）

アンケートを読んで、子どものことを第一に考えているということが感じられる。皆の意見を聞くと統合した方がよいと思う。

(C委員)

自分の考えとしては統合した方がよいと思う。地域の人の中には湯日小を残してほしいという人もいる。湯日小から初倉中に入った時、クラスに馴染めない子がいて保健室にいつてしまう子もいるので、親としては統合して大人数で教育を受けさせたい。湯日小を統合したら、残った校舎を活用してほしい。小学校は歩いて通えるくらいの距離にある方がいい。

(D委員)

アンケートを見て、子どもの事を最優先に考え、統合する事が必要だと考えていることが改めてわかった。北部の小学校が第一小に通うには不便が生じるため、市の方でバックアップし、バスなどを活用すれば負担が少なく済むのでは。統合することによって子どもの教育は良い方に行くのではないかと思う。ただ統合すると若い人が減っていき、地域の文化や活動が出来なくなっていく。こうした問題を考えていけないといけないのでは。統合した後、学校をどう活用していくか、大きなポイントであると思う。建物は活用していないとダメになってしまう。従って学校を活用する方法を考えて、地域の人が集まる場所であったり、若い人が住んでくれるような活用を考えていけばよいと思う。

(E委員)

初倉・北部の両方の意見交換会に参加したが、保護者は基本的に統合を望んでいるという声だった。地域の人たちは学校を残してほしいという考えの人が多い。統合については検討委員会で一任するので、後のフォローは地域でなく行政に関わってほしい。地域だけでは負担が大きい。という意見があった。

(F委員)

子どもを中心に考えれば、学校再編をした方がいいだろうという意見が多かった。しかし今の校舎は残していつて活用ほしい。活用については行政で案を出してほしいという意見があった。統廃合しないことによって、そこから出て行ってしまうということもわかった。

(G委員)

思ったより統合に賛成している人が多いということがわかった。最近の保護者をみて、安心・安全に気を使う保護者が増えている。統合によってスクールバスの運行の保障も必要であると感じた。

(H委員)

学習指導要領の改訂がされる。その中身は10年後の社会を見据えると、これからの世の中は変化していき予測しにくい。子どもたちがよりよく生きていくためにどんな力をつけていったらいいのか説明を受けている。いろいろな人に出会って多様性の中で生きていくということもあるし、情報化社会の中でいろいろな情報を取捨選択し考えていく力をつけなければならないことを考えると、授業を行う側としてはある程度の人数がいた方が力をつけていくためにはよいと思う。例えば24人子どもがいれば、24の意見に出会えてそれについて取捨選択でき、2人と24人の意見を比べたとき、24人なら違うものが生み出されるということとそれを一つに纏める難しさが経験できると思う。それが難しい社会を生きていくための資質になると思う。少人数の教育を否定する訳ではないが、これからの教育で求めていく力

を考えた時にある程度の人数は必要であると思う。皆さんの意見を聞いていて、課題になるのは、今の建物をどうするかということと地域の文化をどうやって継承していくかということは非常に大きな問題である。

(I 委員)

伊久美小については前回、委員長から説明があったが、他の北部3校とは距離的にも離れているし、特任校としての役割もある。中学校の再編について反対している人が少ない。これは部活動に係る影響だと思う。部活動については、人数が少ないから合同でできるものではない。保護者が知らない部分があるので、説明していかなければならない。ただ一中と北中が早く一緒になるのも悪くはないと思う。

(J 委員)

初倉と北部の意見交換会に参加したが、厳しいことを発言する地域の人もいた。もし自治区が統合していれば学校再編は楽にいくのではないかと思う。自治区の再編も市が進めていくような状況になればうまくいくと感じた。

(委員長)

私自身も皆さんの意見と同様である。おそらくこれからは平坦ではない。どんな形でも社会の形を変えるわけだから、全ての人が万々歳という結果は期待できない。我々検討委員会としてやることは島田に住んでいる以上は、全体として一番いい形を作っていくということに尽きると思う。最初から共通して出ているのは子どもの問題を優先するということである。その上で同時に学校の校舎の活用を中心として地域と子どもの繋がり的问题、それから地域自体の持続的な存続の問題が関わってくる。

事務局の説明があったが、検討委員会として私自身の考えを述べさせてもらう。

100%でないにしろ9割を超える人がその方向性(再編する)に賛成している。湯日小は初倉小に一体化すると同時に湯日小を地域の子育て拠点にし、これからの発展を先駆的に考える。それから北部地区の北中に関しては一中に一体化することについて、ほぼ反対に近いことは感じられない。これについてはそのような(再編する)方向性で書いていけると思う。北部地区の4小学校について、特に伊久美小は特任校としての役割があるということと距離的な問題があるということである。基本的に方向性としてより多くのコミュニケーションができる状態を作っていくということは揺らがないことで、その結論を求めていくということについては、検討委員会で作って行政がそれを追認するというだけでなく本来、行政と地元で検討していく問題である。この北部地区の小学校については平成37年度に第一小学校を改築すると考えると、あと1年間考えることができる。今のまま行くということは難しいにしても、地域で教育及び子育ての拠点化と学校の中での多様なコミュニケーションをどうやって両立していくかということについて、委員を教育課程に通じた教員と地域の中で学校と関わってきた人を中心にして議論を1年間重ね、統合後の学校が使われるようにしていかなければいけない。残った学校を最大限活かしていくことを考えていくべきである。この委員会での結論が9月として9月以降、それを積極的に考えていくような組織体制を提言していく。以上、3点を提案していきたいが方向性はどうか。

(D委員)

校舎の利用について、施設の維持は市の財政的予算を考えると、いつか維持できなくなると思う。地元の拠点として、自分が残していきたいと考えている。利益を得られる場所かつ地域が集まれる場所として利用できるなら、施設の管理を自分でしたいと考えている。ただし敷地が広いので市から補助をしていただきたい。その代わりに学校の維持管理は自分の会社で面倒を見る。そのようなことができないのか。

(委員長)

その問題は市のスキームとも関わってくるので即答はできないが、いろいろな活用が考えられ、全国の事例をみていくと、いろいろな事例が出てきていることは間違いない。

いろいろな活用が考えられるので、市に提案してみたらどうだろうか。

(F委員)

湯日小・初倉小の統合と北中と一中の統合についてスピード感をもってやっていただきたい。校舎の活用については平成31年度までに議論を行うことに賛成である。地域の文化を継承するために新学校のカリキュラムに取り入れていったらどうかと思う。

(委員長)

これは考えなければならない問題である。これは教育の中身を決める人を中心に地域の人と一緒に考えていくとよいと思う。

(A委員)

基本的に委員長の案に賛成である。伊久美小の特任校のような特色がある学校は残してもいいと思っている。もし統合するなら改善センターなどを活用して総合的な施設を整備することもできるので議論させてもらえればと思う。一中と北中は再編に賛成である。早くやってほしい。

(委員長)

地域にとっては、拠点が分散しているより一箇所にあった方が人は集まる。長期的に伊久美のような一体性のある地域は一箇所に集中している方が良い。

(委員)

各地区において空き家が増えてきている。空き家を活用することによって地域のコミュニケーションを維持している。そのような活動を行っているところが増えてきている。学校がなくなるのは残念だが、前向きな考え方で空き家を利用した活性化もある。すべて残さなければならないという考え方で進むのも大変だと思う。

(委員長)

新しいコミュニティの在り方をこれから模索していかなければならない。空き家については一定の

ニーズはあるが、全国どこでもあるので島田を魅力ある地域にしていくためには、教育のコミュニティがあることである。学校へバスで通っても、しっかり学習できる環境が整い、地域の人が面倒見てくれればそれは明らかにメリットになる。地域の強みを活かして考えていくことである。そのためには1年半位、地域の事情に沿って考えていかなければならない時期がきている。そのために、地域の方と行政が同時に関わっていく形を作っていくことを検討委員会は提案することで次の委員会に委ねたいと考えるがよろしいか。